

アイヌ語地名に防災の糸口

乾燥させた食材を子どもたちに見せる関根健司さん(右端)



由来や故事伝承探る 深川で「教室」

【深川】アイヌ語地名や伝承から災害時の対策を考える「歴史から考える災害教室」が11、12の両日、道立青少年体験活動支援施設「ネイパル深川」で開かれた。旭川や深川など小中学生9人が1泊2日の日程で参加し、初日はアイヌ語を指導する関根健司さん(54)＝日高管内平取町＝が講師を務めた。

乾燥保存食は「現代の非常食」

関根さんは「道内の地名は約8割がアイヌ語が由来といわれる」と説明。空知はアイヌ語で「滝がごちゃごちゃ落ちていく」という意味の「ソラプチ」に由来するとした。また、平取町荷菜は、ニナ(アイヌ語でヒラメ)が津波で打ち上げられたという故事伝承が語源と解説した。

関根さんは約1年かけて乾燥させたサケ、穀物のヒエやイナキビ、トウモロコシなどの保存食を持参。「アイヌは作物が採れない時期に保存した作物を食べる。これは現代の非常食にも通じる」と説明した。

参加者は、災害時の非常食として使われるアルファ化米作りも体験。炊いた米を水洗いし、電子レンジで加熱して水分を飛ばすことで保存性を高める手法を学んだ。

北海道教育大付属旭川小6年のAさん(11)は「もしもの災害時に何が生かせるか考えるきっかけになった」と話した。(出井一彰)

2025年 8月13日(水) 朝刊 空知版 15ページ (記事は再編集しています)

- (1) 「空知」は、何というアイヌ語から由来した地名ですか。
また、それはどのような意味をあらわしていますか。
- (2) 平取町荷菜(にな)は、「ニナ(アイヌ語でヒラメ)が津波で打ち上げられた」という故事伝承(昔からの言い伝え)が語源となっている地名です。この言い伝えから、どのような防災対策が必要と考えますか。また、そのように考えた理由も書きましょう。

【やってみよう】

北海道の地名は、約8割の地名がアイヌ語由来といわれているそうです。あなたの住む地域名の由来を調べるのも面白いですね。もし、災害に関するものがあった場合は、必要な対策についても考えてみましょう。